

その如革命派の防衛は六十年の立場へ

陸仁氏一新橋一都堂跡に対する「騒乱罪」の起動であり、六十九年沖縄役事における

共産主義者凶暴と革共同中核派に対する「破

防法」攻撃であった。そのことは日本橋の成

革な革民的左翼の爆上の次に日暮丸の長ら

がいじめた内革命的対策などの間にある種の頂

上が作り出され限界局面に至りつめたことを

物がたつていた。

このことまで十九年東大四年から昭三ハ四年

の過程を経て明かにしていく。

あの東大毎田司監修と神田カナルチヨリラタ

ンは日帝のアシニア傳説と反革連合の解説に対する政

ことと日本の中立政策と反革連合に対する政

治運動を實踐することにあつた。又同時に中

民社民母の分離を押し進めるにそつた

対革連合の口しクリアーテーへ組織化すべく

と/orあった。したがつてそれ以降の例えば四

、二、ハ、なら一昨秋の安保決議のように議場で

の軍事化がストレートに直結していふうな

事態のである。しかしここで曰く既に年其期

、四國の止揚せ産別の止揚といふこと名義

軍事的敗北に政党的敗北つまり抗争の勝

代に入する過渡的與路としてあつたのをも

そしては①組織された暴力の被だ大體的自殺

武装の領域であつたこと。②年入民的自殺暴

襲の範が広められたこと。③同時にね付は鳥

達にね付は再編にのりだしたことと十この問題

がでてきただといえよう。

以上のことからでも明らかなように政治暴動

に重視をあいた大衆的力による二つの現象ではじ

一〇年代前半の四年は力の争を因えないという

ことであり、既右から「武裝論記」ほか、豊野

に向け、つきり往来のバウロのための向いが

うれ力実力打撃のための斗争の組織化へと看

るの戦争の質的形態を相続的存続試験場の内実

我々はなる傾向を不斷に内的に発生させる
現在明大星共連は組織的分離が進行し、解
体していると看される。(これは全国学園
会共斗門をシナエトへより正確にはシナエト
斗争と主体的に起つた各全共斗も同様である
。されば星共連合の分離問題がその
ことで如実に示しそつる。)それ曰く「一体
何によつてもこれらたるのみ」(さ云うの
限界を如何に我々が上揚するのか?)この
ことの解明は急務を課題としてあるといえよ
う。その解明たゞす我々は星共連合の崩
壊に見らるる多種多様な複雑性ならびに
さげてさを。(基本的には以下の三復讐
がある。
 (1) 財自由争大解体派(ジョンニコン派)
 (2) ノンセイドコシガル派
 (3) 戰勝的自治公主義派
 (4) は個別学園斗争を基礎とするがら、大學の
粹を突破した普遍的外延に及ぶるところする
點も突破口した普遍的外延に及ぶるところする
點も、単なる「改良の果実」の獲得の力なら
ず、専ら解体ノマル大学解体と「权力斗争」
の裏面のものに不断に追求する部分である。
 (5) 日衛復興力斗争の標準化とへ組織された暴
力の起着による階級分離主義化により革命
的へがビニーの限界により自然発生的な急進
的大衆的衛復興出で學園斗争を媒介として學
園に回帰するひとにより形成された部分であ
る。それ曰く的口づけたまから強制力に
よる多額の獲得への欲求の傾向を持つこと
の実証に共通する実を持つ。このノン
セイドコシガルは自己の存在を陸海的ヨロレ
タヒコートとして対向的に位置付けられる
場合、常に「漁業アレギヤー」の物質的こじ
これん主義的、非組織的意識を偏向的に發生
し、自己の得失を個別化するに至る。
 (6) 但別斗争を政治に媒介され、政治経済
に転化のせんとする部分をあひ、改良的
暴動の実現を通じて、徹底して「民主ダメー
ド」を要求する傾向を持つ故に权力との非和解的
対立を主観的に所持し、衛復興斗争に外的
に廻守する。尚し、同時にこれは、但別斗
争の徹底化の延長に政治性を獲得していくこと
の意味において、組合主義的改良主義に傾
斜していく可能性を有している。

一九一七年）によって英仏の開拓に次ぐ過渡期世界への突入は、三十年代会戦にわたる国際的貿易分割戦争と帝国主義戦争に対する（日本帝國の）勝利、それへのソ連（ミンスキー）の屈服、そして四五五年以降の米日和専島（シナ）の再建体制

これにて、名義上は「通商為本位制」として、實質的には、にもかくいつず、五八年西郷伊と中和とした資本主義化は既に成立致し、「さうする」「通商國會」の条件を形成すると共に、米帝の「金融強占」と謂可する的力量を發揮した。この所以の補足は、米帝は、先進國市場において、一定地位を後退せ余儀なくされ、更に東洋貿易投資が増大する事の如きを認めたのである。かくして、米帝内外の實際の興味が進み、ついに米帝の金融有志取引様になり、ドリーリンガムは、一舉に創設した。現実的には、六〇四年に、金市場の「ナーレルビラシシユ」である。トヨタ金市場の「ナーレルビラシシユ」である。そこで、當初の意図を失つて、ナーレルビラシシユは、エーワン本

制の動搖へと及ぼしてしまった。帝國主義に剥削せざるの如きは、世界市場はイギリス体制に依つて構立さへしている。だから西園主義の不景気発展は、米市の生産力の平均化Mとして展開される。そこで西園主義の本旨は、西園には、國際通貨在内での通商通貨

反革命的の販賣性であり、他方に裸衣體の販賣的表現と共にあつては、一種輪廓の販賣的表現が依らずして、必ずしも云える因循販賣體の危機は、ペトナム、ドク危機として顕在化、かかる販賣の対立は、たゞ肺病院主義の法則的Mに規定されつゝ、貿易との非相容的な武装斗争と胜利的に対抗する爲めに裏切られた所の斗争を先進国、後進国、軍事的構造上に對する各國別の、軍事的構造上の問題である。後進諸國における所のときは系統的に進行せざるものを得ないといつても世界戦争を有する、それは、既往の英仏日露戦争も水滸にとって然り世界を支配できる種種的な貿易資源を有しない、軍事的にも劣つてゐるからである。併くして、戦後帝國主義によって「海賊者」と「群衆」との対抗關係の出でマジヨンアジーの「貿易的」「貿易的」剥削を直接的に現在所む、革除略々多のは米脂である。何故なら、英仏日露戦争も水滸にとって然り世界を支配できる種種的な貿易資源を有しない、軍事的にも劣つてゐるからである。

日本社会主義建設路線の通り、民族性を明らかにしていく。また、より会議にかけていたソ連の恩恵も打ち砕いていった。現に金日成は「周邊会談」によつて中韓声明が出来られ、反日米両帝国主義、反ソ、インドシナ革命戦争の拡大支持が明らかにされたことに、反南アジアの政治関係は、インドシナ民族解放斗争を中心とするアーディアムと中朝の連帯を生み一方、日米両帝主義、韓日、台港、オーストラリア、ニヨンジーランド等アジア軍事政権の対抗、およびソ連の動搖と帝日主義への加担として新たに形成されてきている。ソ連はNATO-ワルシャワ条約枠組の、「全歐州安全保障會議」を開催し、日本安保に対しては「アジア集団安全保障構想」を対置することによって、帝日主義の反東南侵闘に平和共存をもつて答えるようとしている。ワルシャワ条約枠組軍の制圧下において東欧二党側者は日本群衆をして總体としてソ連に屈服させた。

一世界第三次世界大戦を組織したる世界労働建設の露線がおち出せぬまゝ、文革左派の後退から周辺革命勢力の内閣外交に核外交と人民抗争路線が二面路線の二面化する。文革左派の後退から勝利するに至つた。ベトナム、イングランド民族解放斗争の拡大はラオス、タイ、フィリピンなど武装ゲリラの活動化を招いてゐる。又、中近東では、自家の壊れを突破したペレスチナゲリラが春してあり、更に中南米ではD.L.A.S.（ラテンアメリカ人民連帯）がルーズベルトの下、山岳武装ゲリラから都市ゲリラへの戦術的転換を含めづく、その影響力を外延化させ、中南米スルジヨ・アジーを覆燃せしめている。一方、米帝内部では、ドル危機によるイングランド侵攻を軸にマルジヨ・アジー内部の政局分裂（タカーハート派）をひきおこし、又革新的反戦斗争がB.P.P.、S.D.S等によつて抑えられ、米帝はその国内支配能力を一定程度弱体化させ、米帝は從来の世界戦略の転換をせまられてゐる。西欧においては、西獨がマールに日内反革命を確立し、現在NAATO軍を掌握し、政治的、經濟的へもモードを強化しつつある。仮のNATOの崩壊、母の中日承認によつて対立勢力が一家に群封し込め体制の実際的能力を著しく低下させたが、仮にM.T.革危機でのヨーロッパ反革命軍の登場を料に、西独のニシアテイスによる再編が進行している。アジアにおいて反革命魔王として抬頭しつつあるのが日本である。米帝の世界戦略の転換とアジアからの一定程度の後退により、専ら自らの領土を守るために、アジア再開拓をもくろんでゐる。而して日帝の意向を見つけていた。60年代日帝の基調的政策は国内経済政策の逆行（所得増加政策）による国内資本の強化と労資協調の着成による労働の進出、アジア諸国への経済援助（内安化）の二面路線の右傾化を主軸として、外的には日米安保による米核威嚇の下でのアジア諸国への資本輸出、経済援助による自國資本の経済的進出、アジア諸国への経済援助（内安化）

「うし天米田輔治少輔の講義」
（新編日本文庫）

本大半は、国民的合意の形成の下に現行憲法

任務方針

卷之三

以上、清野・鶴括によると、次に70年代階級斗争を本格的に行なうと多く向けて進展しうる。我々の任務、方針として提出する。

60年代一連のヨイシ・権力の発展しに際しての、一例にまづみに持から、我々はその權の重きが頭であるのみ、但その壁を打ち破るためににはいかなる王道的・権力的後援を求めるのか、いふてはるのうな問題を提起するに至つて、可飛等の外、現実の諸課題にひよこして取り組むべくとの、この地区支社・ゴンシヨーンの困難とは、权力解壊として「自衛武装」種別用語」という意味の脇生であり、「权力多きを打つる武裝」といふればならないのだ。要護武装とは、权力物質的組織に於いて都合的に撕碎しうる角である、軍事的問題である。

いう所に著を要請され、回答は、「う体調種と一体的の趣構を有する。力更体幹ソビテモ再現する」。

の口レタリマ役
の脚本家

直接的に、物質力を表現うる、暴力も之の物質力に可能ならしめる社会へ経済過程の、ヨロセタリヤ革命と同様とする以上、封建社會を種族として存続して強固に組織される。今ハトルジマ政政府革命も資本主義社会といふ

これが日本によつては、昭和後半に至るまで、日本統治下の朝鮮を通過して確立した貿易の形態を示すものである。これは、日本統治下の朝鮮を通過して確立した貿易の形態を示すものである。

君がおおきな功業を成したことは、さういふ點で、必ずしも、君の父の功業を凌ぐものであつた。君の父は、明治時代の初期に、日本に現れた最初の軍事的知識者であつた。君は、その父の影響をうけ、また、君の父の死後、君は、明治時代の中期に、日本に現れた最初の軍事的知識者であつた。君の父の死後、君は、明治時代の中期に、日本に現れた最初の軍事的知識者であつた。

不^可一^般の攻撃がなされた。之より表現が、機動隊の強化、大量拘束の傾向が、不^可一^般の攻撃をもたらす要因である。この傾向は、社会的・政治的・経済的原因によるものである。

大學生、入管法、諸国神社、國民化等々である。二の手では体操、陸上競技等の攻撃的運動である。三の手は、主に我をも含めて、帝國主義化してしまったのである。この二

自衛隊隊員を自損する事態の発生いたる事象を之れとして、之れの自衛隊の内部的解体の過程は、軍事敗戦の主導的・組織的にほどのどうな展開を要す。前の強化として一體的に進行していくべく、

主導主体の普段の負担強化と、权力実体化ソ

五
五
レ
ト
3
ラ
8

エイチへの抵抗として論理化されるのである。今日の学園主義は、权力の集中した空間の中へ「人間」へ「普世人」と、見合致しないといふ困難性を有する。

解放の手で創る二三の社会（希望社会）に、この種の政策は、必ずしもそのは、改革的政策の発展と、確実の國籍の上場を實現せめん限り、有利的影響を及ぼす。そこで、この種の政策は、必ずしもそのは、改革的政策の発展と、確実の國籍の上場を實現せめん限り、有利的影響を及ぼす。

していくにいたる。したがつて、この種の問題は、必ずしも、計画的、組織的に、かつ大膽に、一歩ずつ進んでゆくべき事である。軍隊の軍械の不可避性を認め、之をはねばならない。そのうえ、必ずしも、計画的、組織的に、かつ大膽に、一歩ずつ進んでゆくべき事である。

理性を要求するのである。能つて、現在我にはまだ、なれば以ての内
じは既に明らかにしたるに努力をもれり
せやうで、アリヤル性は既ざ承認し
きり、アリヤル性は既ざ承認し
きり、全てのアリ

反革命軍事政略力と併求する革命の隕落の建設、公正生的本末においては全民の利害、尤も明大學生運動の革命後若を實現せんとする第一義的要擧石、雄立思想を以ていたる塵俗人へと、此風雲一時の間、

(二) 現在の局所を何としても打開せよ——
（三）(1)に備ええて、現実のヨリを全てのよう
二三百回の筋書きを想い切れ。——
4. 38種類多くて負けず坐堂内三連体制を確

尚ほし生に最後の勝利までヨイ抜くために。始めよ。文部省の帝国主義的政策を打つよ。因襲なに

我は、學生会中央銀行委員会に於て、この問題を研究する所と爲めに、日帝の軍事化路線に裏づけた主義、イデオロギー、法的措置をもつてヨーロッパにじしくの仕組を専門化をもつて運行する所である。

皆手を。本城の亞還を通じて、日本米同の反ア人の挙兵で討らんとする野心に計求する人一つ。敗亦や……

著者を一日専ら力の消耗をして、高報的につい抱たれんとする部落解放斗争。被虐

志が夢を実現的にほし返す。三重。二重を譲
譲じてヨリ三重。失して「盤別レ」に松
木立と。あまこノマレニ基く斗ハヒ松

台、七場していいねばならない。更に又、明文三多を三い抜いて全との先進取

學友諸君。我々は昨年全國的に斗争した際に、全國愛國主義の發展した時代に對する斗争の全面的意義を確立する爲めに、三月の「日暮新聞」第一回に

体操をもつて全員に其の精神を傳へ、三ヶ月のレッスンではよいものと見てゐる。

及さういとも、全面的統括を保有として、全人民的信託譲属へと再度意つめていかねばならぬ。